

目で見る



WHO

WORLD HEALTH ORGANIZATION

第6号

WHO 創設25周年記念特集号

1973

発行 ● 社団法人 日本WHO協会

日本WHO協会会長
中野 種一郎



WHOは、1948年に創設されましたから、今年には創設25周年にあたります。

本年4月7日の第25回世界保健デーの主題として、WHOは加盟137ヶ国共通のテーマに、HEALTH BEGINS AT HOMEを採択しました。わが国ではこれを「わたしたちの健康は家庭から。」と表現しました。

人々は健康でありたい、長く生きたいと考えていますが、これは大昔からの人類がもつ素朴な願いであったに違いありません。今日、すべての人々はより豊かな生活を求め、より明るい家庭づくりに毎日を努力しています。

然し乍ら、WHO憲章の前文にある「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」の意味するような社会的な諸条件は整備されていません。

今日、医学の進歩と公衆衛生の向上にめざましいものがあり、それに伴って平均寿命が飛躍的に伸びを示していますが、反面人口の老化化をすすめることとなり、その結果昭和33年以来わが国の死亡原因の上位3位まで成人病によって占められています。

これらの疾病を予防し、私たちの健康を守り増進するためには、先に述べた憲章の真に意味するところの諸条件を整備することが当然必要とされます。

現在、国内的にも、国際的にも環境問題に対する人々の関心は爆発的に高まってきております。いうまでもなく、その契機となったのは、ひとつには先進諸国における技術の進歩、工業生産の高度化などによって環境の破壊が余りにも急激に進展しはじめたことにあるといえましょう。わが国の場合は、狭小な国土のうえに莫大な生産活動を上乗せしている結果、環境汚染がいつそう濃密化し、現実には人々の健康や生命にまで影響を与えているという面があります。

然し、いづれにしても公衆が精通した意見を持ち且つ積極的に協力することは、人間の健康を向上する上に最も重要であり、自分の健康は自ら守るという自覚と努力も又必要であると思えます。

本年は、わたしたちの健康は家庭からという家庭の小さな世界における身近な問題をとりあげ、健康の出発点を家庭におくことによって、WHO事務局長カンドウ博士の言葉の如く、誰でも世界中の健康に貢献出来ると思えます。

日本WHO協会は、微力ながらも国民の健康の維持増進に積極的に取り組み、当協会評語の「あなたの健康、わたしの健康、世界の平和。」を目途に明るい家庭づくりに貢献いたしたいと存じます。

ここに、WHO創設25周年記念特集号として、目でみるWHO第6号を刊行しました。

つきましては、皆様のご高覧をお願い申し上げますと共に、当協会発展の為惜しみなきご支援とご協力賜われますようお願い申し上げます、目でみるWHO第6号発行のあいさつとします。

WHOと紋章



WHO（世界保健機関）とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関で World Health Organizationの頭文字をとって、WHO（ダブルユ・エイチ・オー）と呼んでいる。

その目的は全人類の健康を守るために、世界の国々が力をあわせ努力しようとするものである。

なおWHOの紋章は、国連紋章の中央に医術の神といわれるヘビとギリシャの医神イスキュレピアスの杖を配したものである。

健康とは——

完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、
単に疾病又は病弱の存在
しないことではない。

〈WHO 憲章前文より〉

■新鮮な空気太陽とオゾン
を一杯あびて健康そうな5、
6才の少年・少女の三輪車
によるレーススタート風景



■くりひろげられる白熱のゲーム



《第25回世界保健デーのポスター》



health begins at home

WORLD HEALTH DAY 1973 · WHO'S 25th ANNIVERSARY

WHO創設二十五周年によせて

WHO事務局長 M・G・カントウ

——第二十五回世界保健デー——

WHOは、1948年の創設以来、数十億の人びとに影響のある、各種の保健上の大きな問題に力を注いできました。しかし、WHO創立25周年に当る今年の世界保健デーには、家庭という小さな世界における身近な健康の問題を振り返って見るのが適当ではないかと思えます。国際的な健康の保障が世界の個人の国の健康水準の如何によって成立すると全く同様に、個々の市町村の健康は、それを構成している各家底の健康状態次第であります。

一つの家庭をより健康的なものにするためには無数の方法があります。保健についてもっと学ぶこと、手に入る食品を最も上手に活用すること。有害な廃棄物を適切に処理すること、丈夫で自立心の強い子供に育つように手をかすこと、家族計画によって一人一人の子供がその人生においてより良く、かつ、輝かしいチャンスを持てるようにすること、事故に対していくつかの基本的な予防を行なうこと、年寄りの幸福を守るなど、そのほんの数例にすぎません。

こういった対策の中には、家庭が地域社会からのサービスを必要とするものも多数あります。すなわち、上水道の普及、伝染病の予防接種、妊娠中および出生時における母親の保護などがその例です。また、地域サービスを必要とするもう一つの例として、現代の多くの家庭の生活条件は、老人たちがその若い時に馴染んだものと非常に異なった姿になっているということがあります。過密都市における生活には、老人が長年かかって身につけた習慣は、恐らくはも早や通用し難くなっています。然し、地域社会の対策があればこそスムーズな適合が生れるのです。

より健康な生活を送ろうとする努力が隣人の病気とか悪い習慣によって妨げられることもあります。が、良い習慣や健康な生活様式も感染して伝わってゆくものです。

健康の出発点を家庭におくことによって、だれでも、世界中の健康に貢献できるのです。